

# 令和元年度 学校評価総括表

奈良県立王寺工業高等学校

教育目標	日本国憲法、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、時代の進展をみつめ、人権を尊重する民主的な社会の創造に努める人間の育成を期する。		総合評価
運営方針	1 人権尊重の精神に徹し、正しい生き方の自覚を深め、社会連帯の精神を養うとともに、人間性豊かな生徒の育成に努める。		A
	2 基礎学力の定着を図り、専門的な知識と技術を習得させるとともに、創造的な知性・技能を育てる。		
	3 正しい判断力と強い意志力、たくましい心身を育てるとともに、自律的な生活態度を養う。		
	4 体験的な学習や実践を通して、正しい職業観や勤労観を身に付けさせるとともに、自信と意欲をもたせる。		
平成30年度の成果と課題	本年度の重点目標	具体的目標	
<p>これまでの取組を更に充実・発展を目指していく。進路面では上場企業の他、4年制大学や公務員の合格、また、19年連続就職内定率100%の実績も持続できた。「実社会に通じる節度ある行動が出来るよう指導の徹底が図られている。」</p> <p>○アンケート調査では、保護者から95%を超える高い評価を得ている。この結果に慢心することなく、「家庭での学習習慣が備わっていない」、「部活動加入率の低下」などの現状も踏まえて、学習面や生活面で引き続き対策が必要である。</p> <p>また、教職員の連携やコミュニケーションをより一層図り、一丸となって積極的に生徒と係る姿勢を常に保持し、現状維持ではなく向上を目指す。</p>	1 分かりやすい授業、きめ細かな指導を行い、生徒の学力向上に努める。	個々の学習状況を把握し、きめ細かな指導を目指す。常に授業改善に努める。	A
	2 基本的な生活習慣を確立し、規範意識の向上を図る。	挨拶励行を基盤とし、礼儀やマナーの向上に努める、積極的に生徒にかかわる。	
	3 工業教育の充実を図り、生徒の専門力を高める。	産学連携や生徒の自主活動を奨励する。資格取得を推奨し積極的にサポートする。	
	4 キャリア教育を推進し、就職指導、進学指導の充実を図り、生徒の進路を実現する。	就職、進学ともに質の高い進路指導を行う。	
	5 部活動やボランティア活動を奨励し、人間力の育成に努める。	積極的に部活動やボランティア活動への参加を奨励する。	
	6 人権教育をあらゆる教育活動の中で推進する。	人権尊重の精神に立ち、自他を敬愛する心を育む。	
	7 保護者や地域への情報発信に努め、地域とともにある学校づくりを目指す。	学校からの情報発信に努めるとともに、地域の方々と協働する機会を増やす。	

A. 十分である    B. ほぼ十分である    C. あまり十分ではない    D. 改善を要する

評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題	改善方策等	学校関係者評価
			1	2	総合			
学習指導(教務)	「分かりやすい授業」「きめ細かな指導」を目指し、授業改善を進める。	<p>時季に合った適切な学校行事等を配置することの重要性に鑑み、授業時間数を確保するため、授業を削減することなく、学校行事等を7時間目に実施する。</p> <p>7限目の活用回数 <b>A: 8回以上 B: 6回以上 C: 4回以下</b></p>	A	B	B	45分授業の7時限校時にすることにより、6時間の授業を確保しつつ、7時限目に学校行事を設定した。家庭訪問期間も45分授業で実施できた。	<p>教務にとって大切なことの中に授業時間の確保があり、時間割変更で自習時間をなくす等、全教職員の協力のもとで、授業時間確保に努める。</p> <p>通常50分授業を基本に、授業時間確保を行い、曜日による授業時間のバラつきを少なくするように行事計画を立てていきたい。</p>	A
		<p>祝日や学校行事などで、曜日による授業時間数のばらつきを、時間割変更等で曜日による授業時数の差をすくなくする。</p> <p>多い曜日と少ない曜日の日数差 <b>A: 1日 B: 3日 C: 5日以上</b></p>	A			各学期のスタート当日の始業式の午後からも学校行事を設定し、なおかつ翌日から6時限授業を実施できたので、授業時間確保を少しはできた。		
		<p>生徒にとってバランスの良い時間割を編成し、自習時間の授業がないように支援する。</p> <p>自習時間の授業数 <b>A: 3回以下 B: 6回以下 C: 7回以上</b></p>	A			突発的な変更があった場合も、できる限り時間割変更を行って、自習時間を作らないように協力し合えた。		
		<p>生徒全員の学力向上の取組みとして、SHRの最初の10分間に朝の学習を実施する。</p> <p>取組み回数 <b>A: 50回以上 B: 40回以上 C: 39回以下</b></p>	A			朝のSHRにおける学習の習慣も、全学年定着した。効果が少しずつ現れ、学習に対する意欲の向上につながっていると思う。		
		<p>進学希望者の進路実現のために、各教科の進学講座を実施する。</p> <p>進学講座実施回数 <b>A: 30回以上 B: 20回以上 C: 15回以下</b></p>	A			放課後の進学講座を各教科の協力により曜日を決めて実施できた。就職セミナーも実施され、進路指導が充実しているように思う。		
		<p>「分かりやすい授業」「きめ細かな指導」を目指し、授業改善アンケートを実施し、その結果を踏まえて、年度内に改善を目指す。</p> <p>アンケートの回数 <b>A: 3回 B: 2回 C: 1回</b></p>	C			全校生徒に授業改善アンケートを実施して、授業改善に努めた。今年度も11月の1回しか実施できなかった。		
産学連携や生徒の自主研究を促進する。	<p>社会人講師や外部指導者による工業技術を学ぶ機会を設ける。</p> <p>実施学科数 <b>A: 3学科 B: 2学科 C: 1学科以下</b></p>	A	B	<p>実社会で活躍する社会人や外部指導者に、実社会での工業技術の活用や意義を聞くことにより、工業技術の知識や技術、意欲・スキルが高まった。</p> <p>全校生徒の前で、1年間の課題研究の成果を発表することにより、研に対する意識や関心をもたせることができた。パネル展示も行った。</p>	<p>工業の専門力育成のため、「ものづくり」への関心・意欲・態度を高めるため、授業を工夫し、日頃から生徒作品や工業製品・工業技術に触れさせたり、見させるように取り組んでいきたい。</p>	A		
		<p>課題研究で優秀な研究を1・2年生の前で発表する機会やパネル展示の機会を設ける。</p> <p>回数 <b>A: 3回以上 B: 2回 C: 1回以下</b></p>					B	
		<p>課題研究等の優秀な作品を、本校の生徒作品展示場「ギャラリー工業」の展示に加える。</p> <p>展示作品数 <b>A: 3作品以上 B: 2作品 C: 1作品以下</b></p>					A	<p>課題研究の成果を生徒や来校者に対して展示することで、学校の取組みを理解してもらえた。</p>
学校からの情報発信を行う。	<p>保護者に行事計画表を中心に学校の様子・出来事などの配布物により、学校からの情報発信を行う。発行回数 <b>A: 12回以上 B: 9回以上 C: 8回以下</b></p>	C		<p>保護者等へ、行事予定等の情報発信を行えた。学校の様子・出来事などの配布物は配布できなかった。</p>	<p>学校の行事計画が生徒、保護者に情報が伝わっている。プリント配付に加えて、ホームページでも各種情報発信も行っていけるようにする。</p>			

(教務) 学習指導	既存の ICT 環境の保守・点検・整備に努める。	IT 機器の増設及び整備を積極的に行う。	A	A	B	校務や成績処理等に IT 機器を活用しているが、十分にその能力を発揮するために、常に ICT 環境の整備やトラブル発生時の緊急な対応に取組めた。	常に IT 機器の状態を把握して、突発的なトラブルに備えるようにし、快適な環境で仕事に役立てていきたい。	A
		トラブル発生時、原因を適確に把握し、まずは職員で対応する。職員で対応不可能な場合は、業者と連携し迅速な復旧を行う。	A					
	web ページを更新して情報発信を行う。	web ページを毎月平均 2 回以上更新を行い、中学生・保護者・企業に対して情報発信する。 年間更新回数 A: 24 回以上 B: 20 回以上 C: 12 回以下	C	C				

評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題	改善方策等	学校関係者評価
			1	2	総合			
式典・広報・PTA 連携活動(総務)	入学式・卒業式等の儀式行事を円滑に運営する。	儀式行事の円滑な実施を行うために、効率的な企画・立案を行い、教職員の共通理解を図るとともに、分掌・学年間の緊密な連携・調整を行う。 厳粛さや、規律正しさに加え、保護者・来賓の目線にも立って式典を実施する。	B	B	B	第 1 学年や部活動顧問・生徒の協力により、準備がスムーズにできた。式典は厳粛に行えた。	関係部署との連携を図り、円滑な運営に努める。	A
	各種刊行物を計画的に発行する。	各科・学年・分掌との連携を密にし、学校経営計画、貴望(夏期休業期間の指導計画)、入学の手びきの内容の充実を図るとともに適切に発行する。 学校案内リーフレットのデータや写真を更新し、最新情報を伝えられるようにする。	A	A		関係部署との連携を図り各種刊行物は掲載内容の充実を図り発行できた。学校案内リーフレットは写真やデータを最新のものに更新した。	計画準備を早期に取り組み、関係部署との連携を密に図る。学校案内リーフレットに最新の情報を掲載できるように計画的に準備する。	
	広報活動を推進し、王寺工業高校の魅力を積極的に発信する。	効果的なオープン・キャンパスを開催するとともに、中学生・保護者の積極的な参加を促す。 参加者総数 A: 200 人以上 B: 100 人以上 C: 50 人以上 校外で実施される学校説明会等に積極的に参加する。 出席回数 A: 10 回以上 B: 7 回以上 C: 5 回以上 新聞社や報道機関へ本校の取組や学校行事等の情報発信を積極的に行う。 情報発信回数 A: 10 回以上 B: 7 回以上 C: 5 回以上	B	A		王工見学会には中学生 138 名、保護者 84 名の参加があった。アンケートで「工業高校の内容がわかった。よくわかった。」合わせて 94.7% だった。 校外で実施される高校説明会に 11 回参加した。本校への中学校 PTA 見学が 3 回あった。 報道機関や出版社等へ情報発信を 13 回行った。	関係各部との連携を密に図り、計画準備を早くから取りかかる。HP の活用や学校説明等で王工見学会の案内を積極的に行う。 新聞社や放送局への情報発信を円滑に行えるよう関係各部と連携を密に図り、本校の魅力の発信に務める。	
	各種資料を適切に保存する。	本校紹介記事の収集を行い、職員室前に掲示するとともに、各種資料の整理を行い、有効に活用できるよう保存する。	B	A		資料室の整理を 7 月に行った。職員室前ボードの掲示資料の整理を毎学期行った。	資料の整理を定期的に行う。	
	学校評議員との連携を図る。	学校評議員との連絡を密にし、学校の教育活動の様子等を適切に情報提供する。	B	A		適切に情報提供を行い、学校評議員会を実施できた。	学校評議員へ情報発信を適切に行う。	
	育友会との連携を図り、教育活動への一層の理解と協力を求める。	育友会本部や専門部などとおして、体育大会や王工祭などの学校行事や育友会保護者研修会等への保護者の参加を積極的に呼びかける。 育友会本部役員・評議委員との連携を密にし、各種研修会への参加を案内し、充実した活動の展開に協力する。各種研修会出席率 A: 85% 以上 B: 70% 以上 C: 60% 以上	A	A		各種研修会の案内を適切に行い、出席率は 90% を超えた。保護者の王工祭、体育大会等への参加も多かった。7 月に育友会保護者研修会を実施し多数の参加者があった。	育友会活動の保護者への周知方法を工夫する。	
	同窓会との連携を図る。	同窓会役員と学校との連絡調整に努める。 個人情報の保護の観点から、名簿の管理に万全を期す。	B	A		同窓会との連携の窓口になり、行事等への参加をいただいた。同窓会名簿等個人情報の管理を適切に行った。	同窓会との連携を図っていく。	

評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題	改善方策等	学校関係者評価
			1	2	総合			
生徒指導	生徒に積極的にかかわり、社会人として必要とされる礼儀を身に付けさせる。	本校の伝統になっている礼節を重んじる校風と挨拶運動を推進する。 生活委員を中心とした挨拶運動の年間のべ日数 A: 21 日以上 B: 16 日以上 C: 13 日以下 定期的な校門指導や、効果的な下校指導(校外)を行う。	A	A	B	あいさつ運動、ターミナル指導等、定期的効果的に行われた。	今後も、本校の伝統である「あいさつ、礼節を重んじる校風」の推進に努める。	B
	基本的生活習慣を確立し、規範意識の向上を図る。	基本的生活態度の醸成につとめる。 年間総遅刻回数前年度比 A: 20% 減 B: 10% 減 C: 変化無し 規範意識を高める。 年間総特別指導回数前年度比 A: 26% 減 B: 11% 減 C: 変化無し 「王工スタンダード」の徹底をはかるため、「生指部通信」を発行する。 年間発行回数 A: 10 回以上 B: 8 回以上 C: 4 回以下	B	B		年間総遅刻回数は昨年度 1145 回から 1086 回へと微減。生徒の変化に応じて指導も変える必要がある。 特別指導回数は昨年度 19 件、本年度 19 件と同数である。 「生徒指導通信」は年間 10 回の発行予定である。 職員会議等で少しは事例研修ができた。	生徒の気質の変化に伴い、指導方法も変えていく必要があるのではないかと。保護者対応も言葉を選んで話さないと行けない。 少しのコミュニケーション・忍耐不足から、けんか・暴力行為にいたる事象が増えた。	
	自他共に「命の尊さ」について考える生徒を育成する。	生徒指導の現状と課題についての事例研修会を実施する。 安全教育の充実を図る。(交通安全教育、薬物乱用防止教室等の実施)	C	C		効果的な講習が、定期的にできている。	来年度も、様々な機会を通じて校外での情報を積極的に伝えることを心がける。	
	いじめなき学校を確立する。	いじめの未然防止、早期発見につとめ、いじめを認知した場合は「いじめ防止基本方針」に基づいて適切な対応を行う。	A	B		学期ごとの「いじめアンケート」を行うことができた。生徒の様子を知る上で大変重要であった。	「いじめアンケート」は今後も継続して定期的に行って行きたい。	

評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題	改善方策等	学校関係者評価	
			1	2	総合				
人権教育活動	人権教育推進のための指導体制・指導システムを確立し、相手を思いやる心を育む。	生徒の人権に対する意識・知識を把握するアンケートを実施し分析する。今後の講演会などの内容に生かす。	B	B	総合	<p>質問内容改訂して3年目を迎え、3年分のデータ分析を行った結果、「人権や同和教育という言葉をどんなところで聞いたか」の質問に86.3%の生徒が学校と答えており、この数値から人権教育は学校教育の担うところが大変大きいと言える。</p> <p>人教部学年係が人権HRの指導案の作成や事前研修等を行った。人権全校集会では、キング牧師の公民権運動のDVDを視聴し、人種差別について考えた。また、ナラ・ファミリー&amp;フレンドの代表を講師として招聘し、外国人との共生について学習した。</p> <p>若手教員が部落差別の問題を学習する機会が激減している状況にあるので、昨年に引き続き講師を招聘し、部落問題学習の課題と部落問題の現状について職員研修を実施した。</p>	<p>・アンケートの人権に関する既習内容の上位3位は「いじめ・震災・障害者問題」であり、余り学習していない内容は「性的マイノリティ・外国人労働者・在日韓国朝鮮人問題」であった。これまで学習していない内容を計画的に実施できるよう努める。</p> <p>・人権学習の基本的内容は人権HRの年間計画に組み込み、新しいテーマや講師を招聘して実施する方が効果的な内容は人権全校集会において実施する。</p> <p>・現在、多種多様な人権に関わる問題があり、何を職員研修のテーマとして取り扱うかは非常に難しいが、部落差別に関する職員研修は様々な方法で継続実施する必要がある。</p>	A	
		人権教育部がLHRの指導計画を作成し、3年間で様々な人権問題について学習する。春の人権全校集会はDVD等の視聴、秋の人権全校集会では外部講師による講演会を実施する。	A	A					
		指導充実のため課題解決を目指す職員研修を実施する。	B	B					
	人権教育推進のため、指導内容のプログラムを確立する。	生徒個々の実体験を題材とした人権作文を提出させる。 人権作文の提出率 A:95%以上 B:85%以上 C:65%以上	A	A		B	過去に生徒自身が「いじめ」を受けた体験などについて率直に書かれた作文もあり、担任等の周囲の教員が生徒理解を深めるためにも役立った。人権作文は夏期休業中課題として提出されているため、ほぼ100%の提出率である。		<p>・人権作文の募集方法は現行方法を継続し、作文内容によっては個人面談などを実施する。</p> <p>・人権を確かめ合う日の掲示物は時事的な人権問題を取り上げて作成しており、啓発活動として大変有効である。今後は担任や副担任による独自の人権を確かめ合う日を設定することも考えられる。</p>
		人権を確かめ合う日に掲示物によって啓発活動を行う。	B	B			人権教育部員が輪番制で啓発文書を作成し、各クラス担任を通じて年6回の教室掲示を実施した。		
	一人一人を大切に考え、特に支援を必要とする生徒に適切に対応する。	生徒会との連携をはかることで、交流委員会・人権研究部の活性化につなげていく。	B	B		A	本年度も人権研究部の入部者がいない状況が続いている。ここ数年は生徒会執行部役員から2名が人権研究部に所属することになっており、3年の交流委員と共に年間2回の奈良養護学校との交流会を実施した。		<p>・生徒会各種委員会に人権委員会を設置するなど、人権に関する生徒の活動を創出し、生徒会活動を中心としながら関心を深めさせ、人権研究部で活動できる生徒を育てることができないのではないかと。</p> <p>・今年の交流会は、授業で学習したパワーポイントを活用して〇×クイズを作成し、奈良養護学校や高円高校の生徒が全員参加できる内容で、楽しい交流会が実施できた。今後も工業高校の特色を活かした交流会を続けていきたい。</p>
特別な支援を必要とする生徒の状況把握に努め、その支援について、校内関係教員、保護者ならびに関係諸機関と連携をさらに強める。		A	A	学級担任や学年主任の要請により、特別支援委員会を開いて必要とされる合理的配慮の内容を検討し、職員全体を対象生徒への合理的配慮事項について共通理解を図った。また、進学先の学校との情報交換も実施した。					

評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題	改善方策等	学校関係者評価
			1	2	総合			
文化図書活動	読書に対する意識向上に努め、図書室の利用促進を図る。	新着図書・話題の図書を、手作り掲示板を活用して紹介する。 貸出冊数の増加割合(前年度比) A:5%以上 B:3%以上 C:1%以上	C	B	B	昨年度より貸出冊数が3割減となった。ただ、これは昨年度が前年度の3倍増という極端な現象があったことの反動とみられる。実際には本年度も非常に貸出冊数が多く、一昨年度より遥かに多くの貸し出しがあった。掲示板の効果がどこまであるのかは分からないが、少なくとも蔵書数に限りがあるため、ある程度読み尽くしてしまうと貸し出し数が減ると思われる。さらなる蔵書数の増加が一番の利用促進につながると思われる。	<p>来年度も学期ごとに朝の読書週間を実施し、生徒の読書に対する意欲向上につなげていきたい。啓発に関しては昼休みの文化図書委員による放送アピールのタイミングを早く行ったり、掲示板やポスターの利用も積極的に行っていきたい。また、読書週間中の朝の図書室開館も引き続き行う。</p> <p>掲示板の利用に関しては、現代文の授業で作成した本の広告を効果的に使用していく。ビブリオバトルでのチャンプ本を大きく取り扱うことも考えたい。</p> <p>学校ホームページに関しては、体制の整備が整えば、図書室のページを設け、情報の充実をはかりたい。</p> <p>昨年度全体の貸出冊数が大幅に増えたが、今年度はその反動で貸出冊数が大きく減少した。すでに本を読み尽くしたことも要因の一つと考えられる。貸出冊数増加のためには、蔵書の充実が不可欠である。来年度も図書購入費の増額をお願いしていく。</p>	A
		図書館便り「飛行船」を年間5回発行し、タイムリーな話題を提供することで、図書館活動の広報を図る。また、発行した「飛行船」は学校ホームページに掲載する。	B			7回発行できた。紙媒体による発行では、タイムリーな話題をある程度提供できたが、学校ホームページのリニューアルにともない、体制の整備が整わず、飛行船のホームページへの掲載は行えなかった。来年度はぜひ学校ホームページへの掲載を行いたい。		
		王工祭で文化図書委員と有志によるビブリオバトルを実施し、読書の啓発を行う。また、「朝の読書週間」を通して、読書の習慣を身に付けるよう動機付けをする。	A			昨年、長年王工祭で行われてきた朗読会をビブリオバトルに変更し、今年もビブリオバトルを行ったところ大変好評であった。職員の中からも参加希望が現れたり、保護者の見学者が多数来場するなど、生徒以外の関心も高まってきた。2年生の現代文の授業で本の広告を作る取り組みをしていることも、ビブリオバトルのベース作りに役立っている。		

文化図書活動	文化図書委員の育成に努める。	貸し出し・返却等のカウンター業務を分担し、責任を持たせる。 図書館便り「飛行船」の発行、ビブリオバトル、文化講座、お茶席、著名人による出前授業の企画・運営をさせる。 ベルマーク教育助成運動に参加し、図書購入のために自分たちができていることを意識させるとともに、ボランティア意識の向上を図る。	B	B	時折忘れる者もいたが、概ねよ真面目に業務をこなしてくれた。 意欲的に取り組めた。第1回の図書委員会から雰囲気が非常によく、全てに渡って自主的積極的な姿勢がみられた。委員長の立候補も多く、選出に難渋したほどである。王工祭では、ビブリオバトル、お茶席など積極的に運営を行い、行事を成功に導いた。一方、著名人による出前授業は、委員の生徒が意欲的に企画し応募したが、本年度も惜しくも選外になり残念だった。そのまま文化講座は、講師を見つけることができず開催できなかった。ベルマーク教育助成運動については、育友会の協力により、定着してきている。	図書委員としての意識・責任感がさらに向上していくよう、こまめに声をかけていく。文化講座については著名人を呼ぶことが非常に難しいので、校内の教員だけでなく、地域の方々、あるいは生徒で特技を有している者など広くリサーチすることも考えるべきであるし、委員の生徒の意見も取り入れて、今後のあり方を探っていきたい。ベルマークについては、各クラスでの積極的な協力をお願いしていく。
	蔵書管理の効率化を図る。	新しく導入されたコンピュータによる図書検索システムの活用をさらに進める。	A		A	実施できた。

評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題	改善方策等	学校関係者評価
			1	2	総合			
進路指導	望ましい勤労観、職業観の育成に努める。	教育活動全体を通じて、勤労の尊さや創造することの喜びを体得させるとともに、基本的な生活態度を確立させるため、挨拶・服装・メモなど社会人マナーを身に付けさせ、社会人としての自立に向けた指導を行う。挨拶・服装・メモ等について生徒意識調査を実施し、各項目において「必ずしている」と回答した生徒の割合。 A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上	B	B	B	挨拶や服装については「必ずしている」という回答が80%を超えており、意識して行動している生徒が多いことがわかる。しかし、メモについては「必ずしている」生徒は少なく、「時々している」生徒を合わせても70%ぐらいしかない。また、2学期のほうが「必ずしている」の回答が減り、「していない」の回答が増えており、わずかだが意識の低下がうかがえる。	来校された企業の方や、本校の卒業生が入社した企業の方からお褒めの言葉を受けたり、本校から積極的に採用したいと声がかかったりと、確実に進路に結び付いている。それを生徒に理解してもらえよう発信していく必要がある。メモ帳を配布するだけでなく、メモを取る習慣が社会人として必要であることを説明する必要がある。	
	生徒に自らの自己実現を目指して努力させるための系統的な指導体制を確立する。	就職希望者に対して、就職セミナー（筆記試験対策）及び面接指導の充実を図り、就職内定へ向けた指導を行う。 就職希望者内定率 A：100% B：95%以上 C：90%以上 進学希望者に対して、進学セミナー（数・英・理講習会）及び個人指導を実施し、現役合格を目指した指導を行うとともに、積極的に情報提供を行う。 国公立大学現役合格・高専編入者数 A：4名以上 B：3～2名 C：1名 公務員希望者に対して、公務員セミナーなど個別指導を実施し、現役合格を目指した指導を行う。 公務員（技術・事務・消防・警察・防衛など）現役合格者数 A：4名以上 B：3名 C：1名以上	-	A	B	1回目の入社試験の合格率は84.5%であったが、不合格であった生徒もほとんどが2次募集で内定をもらった。1名が職種の選択に悩んでいたが、1月には就職先が確定した。 国立大学に2名が受験したが、準備不足もあってか、力及ばず不合格であった。2名が国立高専に挑戦したが、1名が奈良高専に合格、1名は国立ではなく近大高専に進学することになった。 奈良県警察、自衛隊、奈良市役所に1名ずつ受験し、奈良市役所のみ内定した。自衛隊は身体検査の結果で不合格。県警については面接等の指導の中で本人の意識をもっと高めていく必要があったと考える。	”本年度の3年生は外部による研修、講習に対してあまり積極的になかったせいか、例えば鉄道の就職を考えていた生徒が、入社試験の寸前になって適性検査について質問しに来るなど、対応の遅さが目に付いた。クラブ活動等の予定もあり参加しづらいとは思いますが、ある程度の対策は取っていないと他校の生徒に後れを取ってしまう。積極的な参加を促すように呼び掛けたい。進学についてはできるだけ早くから対策を取る必要がある。特に国立大学の場合は大学がどのような学生を求めているのか等を踏まえ、入学後ついていけるだけの学力と論文があるのならその対策が必要。3年生になってからでは遅い。”	A
	キャリア教育を推進するため、地域や産業界との連携を図り、就業体験学習を実施する。	インターンシップ体験発表会等を実施し、就業体験の必要性を理解させ、参加を希望する生徒を増加させる。また、就業体験学習を実施してくれる受け入れ事業所の開拓に努める。 インターンシップへの参加者率（2年生） A：100% B：95%以上 C：90%以上	-	B	B	17社に依頼文書を送り、97社に受け入れしていただいた。2年生の内95.2%の生徒が参加した。昨年度と比較すると若干参加率が下がった。	進学する者もいずれは働くので、働くことの責任の重さを感じることは大切である。進学を理由に参加しないという生徒がなくなるように呼び掛けていかなければならない。また、学校を離れて、教員のいないところでの体験になるが、学校以上に緊張感を持って参加するように促していきたい。一歩間違えば自分たちの進路を閉ざすことにつながりかねないことをきちんと説明しておく必要がある。	
	進路決定に必要な能力を養い、適切な情報提供を行う。	「It's a demo・ナビ」（専門学校、大学、公務員等の説明会）や各ホームルーム等で、各機関の担当者や社会人講師、OB・OGによる進路講演会を開催し、幅広く情報を提供するとともに、採用試験対策の機会を増やす。 進路に関する行事に対して「満足している」「ある程度満足している」と回答した生徒の割合 A：100%以上 B：90%以上 C：80%以上	-	B	B	3年生へのアンケートで、進路に関する行事に対して「満足している」が40%、「ある程度満足している」が52%の回答であった。しかし、インターンシップに対しては交通費が出ないことや、1社しか体験できないこと、また、進学対策が弱い点や、学科の特性に合った資格取得の取組が少ない点を不満に思っていたり、すべての行事に対して必要性を感じないし、講演会等は苦痛でしかないという生徒も数名いた。	費用のかかることや、回数については予算や進路指導部の負担も考えてできない面がある。しかし、行事に批判的な生徒がいるということは、その行事がキャリア教育の一端としてうまく進められていないということになる。担任の先生方にもご協力いただきながら、それぞれの行事の目的をしっかり生徒にアピールし、その行事を実施する意味を分かったうえで臨めるようにしていかなければならない。	



評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題	改善方策等	学校関係者評価
			1	2	総合			
保健体育	体育行事を行うことにより、自主性と積極性を育てるとともに、生徒間の親睦を図る。	各行事において、生徒自ら準備・運営・片付け等を行わせることにより、自主性と団結力を養う。	A	A	A	体育行事だけではなく、学校行事でも、準備から片付けにおいて、体育委員やクラブ員を中心に活躍してくれたことで、自身の役割分担や協調性を身につけることができたため、準備時間が短縮されスムーズな運営ができた。	各行事の準備・片付けは体育委員や運動クラブ員は良く活躍してもらえたが、一般生徒の協力が少ないので、行事ごとに「おかげ」の意味と協力してくれた生徒に労いの言葉をかける。体力向上においては各種目の特性をいかして、ゲーム中心の内容から基本練習に重きをおいた授業内容にしていく。	A
		体育行事を目標に、日頃の体育の授業において、体力の向上と高い意識を養う。	B	A				
	各自の身体の健康について理解させ、健康の保持増進に努める。	定期健康診断および検診結果に基づく早期治療の徹底を図る。	B	B		保健日より等で健康に関する情報を発信し、保護者や生徒自身が健康に対する意識づけができた。また体育の授業後や食事前等、手洗い・うがいの徹底ができた。	保健日よりでは各学期ごとの健康に関する内容に取り組んでいるが、3学期ではインフルエンザが流行しました。普段より基本的な生活習慣の大切さを授業やSHRで啓発していく。また、実技や保健授業で毎回、食事の大切さ、欠食の影響(体の機能・健康)を伝えてきた成果はあるが、100パーセントに近づけるには、担副の先生方や専門授業の先生方からも啓発指導の協力をお願いする。	
		掲示物を含めた保健指導をさらに充実させる。	A	A				
	生徒の保健意識の向上に努める。	生徒保健委員会活動の活性化を図る。	A	A				
望ましい食事の習慣を身に付けさせる。	朝食を摂る意義と栄養バランスの定義を考えさせる。各家庭に栄養バランスのプリントの配布をするとともにアンケートを実施する。	B	B					

評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題	改善方策等	学校関係者評価
			1	2	総合			
環境厚生	学年末の教室整備実施への手だてに万全を期し、必要な諸条件を整えるとともに、諸設備の点検と保全を行う。清掃用具購入コスト削減のため工夫する。	各教員の掃除監督場所について安全点検を月一回行い、その結果を「安全点検シート」として提出してもらい設備の不備、掃除道具の不足などを把握する。	C	C	B	掃除具の購入については予算化がされておらずとあえず、ワックスがけの準備で電動工具をとりあえず利用出来るように整備した。もう少しホウキやモップの補習部品を購入したい。道具の管理や使い方について徹底して長く利用出来るように努める。	予算化をして年間の活動を計画したい。教員間の道具の使い方を徹底する。	A
		事務室と連携し、修理・営繕を要するものは速やかに対応し、教室整備関連の必要購入備品は、早い時期に購入する。部品修理できる物は、部品交換を行い、購入コスト削減に努める。 コスト削減率 <b>A：5%以上 B：3%以上 C：1%以上</b>	C	B				
	日々の清掃およびゴミ分別の徹底を図り、定期的な大掃除の実施により、校内美化をより進める。	王工祭時のゴミの分別・収集・処理は、美化委員への指導を徹底する。		A		掃除道具をもう少し充実して掃除がしやすくしたい。	室外の掃除用具入れを整備したい。	
		毎日の清掃・ゴミ分別・大掃除における着実な遂行を徹底する。各清掃場所の清掃用具の適正配分と管理を徹底する。ゴミの分別が確実にできている学級の割合 <b>A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上</b>	B	B				
他の分掌との連携を図ることのできるシステムを確立する。	地域への清掃活動を、学年毎に年1回(計年3回)実施する。	A	A	現在は、各学年と生徒会行事の連携は生徒達も良く協力してくれる。	生徒係と教職員の関係は良好です。			
	各学年参加者の割合 <b>A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上</b> 各学年・分掌と連携し、必要な諸道具等の準備に万全をつくす。	A	A					

評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題	改善方策等	学校関係者評価		
			1	2	総合					
生徒会指導	生徒会活動が自主的活動になるように導く。	規律正しく、生徒自身成長できる学校生活になる校風を創造する。 「凡事徹底」を普通にできるようにさせる。	A	A	A	王寺工業を代表する生徒であることを自覚し、小さいことからコツコツと自分にできることを積み重ねている。 2学期は生徒会主催の学校行事が重なり、ボランティア活動の回数が減ったのが課題ですが、例年以上に生徒会行事に積極的に活動をした。生徒会役員のまとまりのある活動ができた。	生徒会活動の1つの柱が、地域との連携である。具体的には、CCC活動、あいさつプラスワン運動、大和川一斉清掃など積極的な参加を全生徒にお願いしている。特に、CCC活動では、各クラブにCCC活動報告書への記入と写真の提供をお願いしている。 もう少し、この活動の輪が広がる対策を考えなければならない。	B		
		ボランティア活動を活性化させる。回数 <b>A:20回以上 B:15回以上 C:10回以上 D:10回以下</b>	A	B						
		生徒会行事の企画・立案にリーダーシップを発揮させる。	A	A						
	部活動の活性化を促す。	生徒のクラブへの全入を目指し、生徒会・各部でのアピール活動を積極的に行い、部活動加入率を上げる。部活動加入率 <b>A:90%以上 B:85%以上 C:80%以上 D:80%以下とする。</b>	B	B					高校在学中は、各クラブで頑張っている。しかし、卒業と共にクラブ活動をやめるケースが多い。卒業しても在学中のクラブで身に付けた技術を活かし、生涯を通してスポーツや趣味を継続する人生設計を心がけて欲しい。	本校で部活動の加入率を向上させる目的は、学校生活の充実と、生徒として相応しい言動と服装を身につけさせ、集団生活に適した行動がとれることである。ただ、クラブ活動が盛んであるのに部費を揚げられないのが問題である。
		生徒が生涯を通して楽しめるスポーツや趣味を持たせる。	A	A						
		ホームルーム活動の活性化を図る。	自主的で民主的なホームルーム活動をするための仲間づくりを進める。	A						
各クラスの目標を定め、その実践に努める。各種専門委員会からの目標・意見をくみ上げ、実践に取り組む。	A		A							

評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題	改善方策等	学校関係者評価
			1	2	総合			
機械工学科	1. 教育課程の編成改善	(1) 新学習指導要領を見直し、教育課程の見直しを検討する ① 現教育課程の課題を抽出する。 ② ①の課題を解決できる教育課程について検討する。	A	A	B	①課題を抽出できた。 観点別評価について課題を抽出完了。 ②まずは機械工作(1年生)について、知識技能、思考力判断力表現力、主体的に学習に取り組む態度の3つの指標にて評価を実施した。	①特になし ②その他の科目についても、今後観点別評価を実施する予定である。	A
	2. 本科教育の質保証の推進	(1)生徒向け授業案内 ① 教育課程に合わせた3年間の授業計画を明確にし、更に必要に応じて修正を加え、より良い授業案内を作成する。 ② 各科目、各単元における単元目標を科として統一した授業案内として充実を図る。 (2)実習内容の検討と修正 ① 実習における内容、順番について課題を抽出する。 ② ①の課題を解決できる実習カリキュラムを検討する。 ③ DMG 森精機との連携実習授業に関しても、企業からの講師先生と課題を抽出し、次年度に向けてのテキストや内容を検討する。	B	B		(1)生徒向け授業案内 ①授業案内をわかりやすく作製できた。 ②単元目標を科として統一(H30年度)、進度について統一した授業案内を作成し充実できた。  (2)実習内容の検討と修正 ①実習課題について、傾斜バイスの寸法精度等変更が必要であるという課題を抽出した。 ②実習カリキュラムについては現在検討中。 ③DMG 森精機(株)との連携授業について、次年度に向けての内容を現在検討中	(1)特になし  (2) ①実習の順番について今後検討予定 ②実習の内容について今後精査する予定。 ③連携授業については、本年3月末までに検討(森精機との打合せ含む)を終了し、4月より開始できるように準備を進める。	
	3. 課題研究等の内容検討	(1)ものづくりのプロフェッショナルを育てる施策を実行する。 ① 創意工夫を凝らした課題研究テーマを検討する。 ② ものづくりに関し外部より必要な技術指導をしてもらう等、派遣講師の効果的な活用方法を考える。 ③ 企業実習を実施し、加えて企業や地域と連携した取り組みを検討する。	A	A		①今年度も工夫を凝らした課題研究テーマについて、教員および生徒で検討することで、実施できた。 ②高校生ものづくりコンテスト(旋盤部門)や溶接競技会に向け、外部講師を効率的に活用できた。その結果、旋盤については奈良大会1位、近畿大会3位の成績を収めることができた。また、本校で初めて技能検定2級(旋盤作業)取得者を輩出することもできた。 ③今年度もGMB(株)のご協力を得て、3年生3名に対し通年で企業実習(奈良県版デュアルシステム)を実施できた。また、企業側から生徒を評価する施策を充実し実施できた。	①今後、プロジェクトマネジメントといった手法を活用し、よりよいテーマ創出活動が必要であると考え。 ②今後も外部講師を積極的に活用していく予定。 ③企業実習について、企業から生徒の評価を効率的にさせていただき、生徒にフィードバックできる施策について継続的に検討していきたい。	

評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題	改善方策等	学校関係者評価
			1	2	総合			
電気工学科	学習指導	1 工業技術基礎、実習のレポートを延滞なく提出させ、また提出期限までにレポートを完成させる指導。特に1年生は、レポート提出が遅れがちになる。今年度も昨年度に引き続き、レポート提出の延滞をなくし、各学期末に未完成レポートがないように根気強く指導していく。なおレポートを丁寧に書く事を指導する。 2 第2種電気工事士の資格取得に向けた座学・実習での取組。各種国家資格受験に対する取組2年生の筆記試験対策としては、実習と専門の座学をうまくかみ合わせながら、放課後に効率的な指導を行う。また、実技指導では、実技試験の完成見本を見せながら指導し、正確な結線と確実な接続方法を学ばせる。短期の講習会を開き受験を手助けする。 3 教育課程や生徒の実態にあった実習の内容に成るように見直し。実習時間・生徒の理解度・専門科目の学習進度に合った内容に変更していくようにする。また指導書の作成についても検討する。回路図を見て接続できるように特に力を入れる。	A	B	B	工業技術基礎、実習のレポートの提出はほとんどの生徒が期限内に提出することができていた。 第二種電気工事士試験は技能審査の採点方法に変更があったようでも例年より合格率が下がった。 新学習指導要領に向けて教育課程の検討は行えた。	レポートの未提出、提出期限遅れの生徒に対しては日々の声掛けを多くの先生でしていく。 第二種電気工事士試験の技能審査の教員のチェックを厳しくしていく。	A
	生徒指導	1 実習室の利用方法や備品の貸出しについてのマナーを徹底させる。(実習室の清掃等)備品等の貸出しと返却方法を徹底するとともに、実習室の鍵は使用する度に返却すること徹底する。また、実習や補習後は掃除をするように指導する 2 挨拶や身だしなみの指導 管理室への入退室の度に、服装のチェックと大きな声で挨拶ができ、きちんと用件を話せるように指導する	B	A		備品等の貸し出しについては徹底できた。 実習終了後の清掃は実習に時間がかかり授業時間内にできないこともあった。 身だしなみ等はしっかり指導できた。	実習の時間内で実習が終われるように実習内容の整理をしていく。	
	科の経営	1 実習備品の整備と削減されている実習費の使用法の検討。実習備品の保全に努め、限られた予算の中で実習材料を計画的に購入をする。 2 実習室の施設・設備の維持管理方法について検討。実習室の保全に努め、使い勝手の良い実習室にする。実習が安全に行えるように努力する。	B	A		需用費、実習材料費等は計画的に購入できた。 実習機器の管理場所を決定したのでしっかり維持管理ができた。	次年度に向けて需用費、実習材料費の計画を立てていく。	
	研究・研修	1 専門科目において、テーマを見つけ研究・研修に参加。各自が専門分野におけるテーマを見つけ、研修会や見学会等に自主的に参加し、見識を深めることで授業・実習等に生かせるように努める。 2 課題研究におけるものづくり教育の推進および技術を取得する。課題研究の授業展開での様々な機会において、適切な指導ができるように研究・研修に励む。	C	C		先生方も忙しく、研修会等に参加する時間がなかった。各々自己研修には励んでいた。	研修会等に参加しやすいように行事等を計画していく。	



評価項目	評価の分野	具体項目	具体的方策			成果と課題	改善方策等	学校関係者評価
			1	2	総合			
情報電子工学科	情報電子工学科としての在り方	<ul style="list-style-type: none"> <li>工業高校の情報系学科として、単に目的を「情報」とするのではなく、「情報技術」を活かしたものづくりに着目し、これからの Society5.0 社会に対応できる人材育成をめざす。</li> <li>現代社会において必要な情報技術とは何かを考え、情報電子工学科としての指導内容の精選を図り、優先順位や授業時間数の再検討をし、新学習指導要領を見据えた新教育課程の構築をめざす。</li> </ul>	B	B		<p>カリキュラム、実習、資格・課題研究の3つの検討プロジェクトを構成しており、各プロジェクトで、今後の情報電子工学科がめざす方向性の議論を行った。</p> <p>コミュニケーションや知的財産権の社会人講師を招き講義を行ったことで、社会性の高い内容を学ぶことができた。</p> <p>チームティーチングにおいて、電卓の使用法や製図の作図方法などを指導することができた。</p> <p>課題研究において、地域との関わり(介護現場や製造会社など)を持つことができた。</p>	<p>今後も科内検討プロジェクト会議を重ね、普段から教員間の情報交換を図り、今後の方向性を探っていく。</p> <p>チームティーチングを活用し、きめ細かい指導を行い、基礎的な学力を向上させていく。</p> <p>実習や課題研究の科目において、地域との関わりを持った研究テーマの設定をめざし、地域社会で活躍できる人材を育成する。</p>	
	学習指導目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>工業全般(機械・電気・電子・情報)の科学的・社会的な基礎知識や技術を習得させるため、授業や実習において指導する。</li> <li>コンピュータを使った情報処理や情報発信するための基礎的技術を学ばせる。特にマイコンボードを用いた組み込み技術や制御技術・通信技術などを修得させる。</li> <li>1年次の学校設定科目「チャレンジ」(2単位)と2年次の「製図」(2単位)でチームティーチングを導入し、きめ細かい指導を行うことにより基礎能力の向上につなげる。</li> <li>社会人講師を活用した講義において、社会で必要なコミュニケーション能力の育成を図る。</li> <li>「課題研究」は、広い視野で物事を捉え、考えられる能力、またグループ活動を通して生徒相互の理解を深め、コミュニケーション能力を養い、地域社会で活躍できる人材の育成をめざしている。</li> </ul>	A	A		<p>1年次「チャレンジ」において、計算技術検定3級に取り組み、90%近い合格であった。危険物取扱者では、合格率が悪く、今後の授業対策を科内プロジェクト会議でも議論した。</p> <p>また資格受検希望者の低下もあり、意欲向上に向けた取り組みが必要である。</p>	<p>1年次の危険物取扱者の受験時期を11月から3月に変更することで学習機会を増やす。また使用教材の精選を行い、教材変更の検討を行っていく。</p>	
	資格検定に取り組む姿勢を育てる	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校設定科目「チャレンジ」において1年次全員で資格検定に挑戦し、その後の資格検定に自ら挑戦していく姿勢を習得させ、資格検定の取得率の向上をめざしている。1年次に資格検定合格数1個以上の生徒の割合が80%以上はA 60%以上はB 40%以上はC 40%以下はDとする。</li> <li>生徒自身が希望する進路に必要な資格検定試験に挑戦させ、電気通信工事担任者や技能検定(情報配線施工)、ITパスポートや情報処理技術などの資格検定合格につなげる。</li> <li>科の特性にこだわらず、危険物取扱者や電気工事士などの資格検定にも挑戦させる。</li> </ul>	A	B		<p>就職・進学試験に向けて、面接練習の指導を行い、自らの進路を見つめさせる機会を設けた。</p> <p>また3年次の1次試験合格率は82%であった。</p>	<p>今後も個々に応じた進路指導の対応が必要であるため、担任・副担任・学年・進路指導部とともに連携して、取り組んでいく。</p>	
	進路実現を支援する	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒自身がより早く真剣に進路について考える環境を整え、将来を見据えた進路選択ができるよう指導を行い、機械系、電気系など幅広い分野で活躍できる人材となるよう指導する。一次試験での合格率向上を図り、その割合が75%以上はA 70%以上はB 60%以上はC 60%未満はDとする。</li> <li>体験的学習科目である工業技術基礎・実習で、様々な分野に通ずるものづくり体験や計測・制御などの体験をさせる。</li> <li>授業や実習において、生徒自身の考えや意見を引き出せるような工夫を行いながら授業展開をする。これにより自己啓発力を高めて進路実現の助力とする。</li> <li>インターンシップ、デュアルシステム、社会人講師、出前授業を通して社会体験をさせ、様々な学習形態を通して3年次での具体的な進路選択に生かしている。</li> </ul>	A	A	B	<p>実習や課題研究において、生徒自身がプレゼンテーションを行い、自身の考えや意見を発表する機会を設定している。</p>	<p>インターンシップやデュアル、社会人講師を活用し、地域とのつながりや社会性を学ばせていく。</p>	A
	計画性のあるカリキュラム編成	<ul style="list-style-type: none"> <li>「課題研究」が本校で取り組んだ学習内容の集大成と位置づける。</li> <li>1年次…機械・電気・情報技術の基礎知識や工具の扱い方を学習する。</li> <li>2・3年次…電子回路・各種制御の学習に発展させる。</li> <li>情報技術は「プログラミング技術」「電子計測制御」「ハードウェア技術」で補強する。</li> <li>3年間で1つのものを作り上げる実習に取り組み、基礎的な技術の習得と様々な場面で対応できる生徒の育成をめざしている。</li> <li>1年次…プログラミング実習で用いる教材基板の製作する。</li> <li>2年次…1年次で製作した教材基板を用いたプログラミング制御実習 ライントレースカーの電子回路組立と工作機械を用いて本体加工を行なっている。</li> <li>3年次…ライントレースカーのプログラムを組み込み、走行テストを行う実習を行っている。</li> <li>新学習指導要領の趣旨に沿って、「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けて、課題研究につながる探究科目の構築に向けて取り組んでいる。</li> </ul>	B	A		<p>1・2年次においてマイコンボードを用いた実習を実施してきた結果、3年次の課題研究でマイコンボードを取り入れたテーマが多く見られ、生徒に定着してきたことがわかる。</p> <p>コンピュータを活用したプログラミング学習の機会が少なく、プログラミングの作成力の向上を図る手立てが必要である。</p>	<p>マイコンボードを用いた組み込み技術や制御技術・通信技術を活用したIoT技術を実習や課題研究において、取り組んでいく。</p> <p>また時間割や実習内容を検討し、コンピュータを活用したプログラミング学習を強化していく。</p>	
科の経営	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種教育研究会や研修会に参加し、教員が常に情報収集に努め、得た研修成果や知識を具体的に授業で生かしていく。</li> <li>地域の小中学校や企業・団体と連携した授業に取り組むことにより、生徒の探究心向上と教員の指導力向上を図っていく。</li> </ul> <p>計画性のあるカリキュラム編成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>課題研究が取り組んだ学習内容の集大成と位置づける。そのために1学年においては機械・電気・情報技術の基礎を学習し、2学年において電子回路・各種制御の学習に発展させる。情報技術の学習面では2学年プログラミングと3学年ハードウェアで補強し、課題研究につなげる。</li> <li>3年間で1つのものを作り上げる取組として、1年で本体をアルミ材とアクリル板で組み立て、2年で電子回路を組み立て、3年でプログラムを組み込み、走行テストを行い、この経験が色々な場所で応用できる生徒の育成をめざし指導している。</li> </ul>	B	A	B	<p>今年度、王寺中学校3年生対象にプログラミング教室を初めて実施することができた。3年生の課題研究班において、生徒自身が指導用の教材作成を行い、講義を行った。</p> <p>課題研究につながるカリキュラムの編成に向けてプロジェクト会議で検討を行い、来年度入学生が2年次で取り組む学校設定科目「探究」の学習内容の検討が必要である。</p>	<p>今後も地域の小中学校との連携に取り組み、本校生徒の探究心向上と教員の指導力向上を図っていく。</p> <p>工業技術基礎や実習のレポート作成について、内容や方法の改善を探っていく。</p> <p>学校設定科目「探究」の学習内容を検討し、指導計画を作成していく。</p>		

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新指導要領の趣旨に沿って、「計測制御」・「通信技術」をキーワードにした授業科目の構成を考える。</li> </ul>				
	<b>教員の指導力の向上</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種教育研究会や研修会に参加したり、新聞やインターネットを通して最新の情報を得たり、教員それぞれが常に情報収集に努め、得た研修成果や知識を具体的に授業に生かす。</li> <li>・各種教育研究会や研修会に参加したり、新聞やインターネットを通して最新の情報を得たり、教員それぞれが常に情報収集に努め、得た研修成果や知識を具体的に授業に生かす。</li> </ul>	B	B	校外の研究会の研修会（工研、近情研、全情研の研究大会資料など）を活用しており、マイコンボードの研修会にも参加し、教員の知識・技術向上に努めている。	校外の研修会の活用し、教員の知識・技術向上を図り、日々の教育活動に展開させる取り組みを推し進めていく。
	<b>生徒の進路保障</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の学習内容を精選し、何を学んだかを生徒が自覚するように明確化する。</li> <li>・基礎学力の充実に努める。様々な学習形態を通して、生徒自身がより早く真剣に自分の進路について考える環境を整えたい。2年生でのインターンシップ、デュアルシステム、社会人講師、出前授業を通して社会体験をさせ、3年生での具体的な進路選択に生かす。</li> <li>・社会で必要なコミュニケーション能力の育成に努める。</li> </ul>	B	A	インターンシップ、企業実習、社会人講師の授業を通して、生徒の意識向上が図れ、得たものが多かった。今年度も1年次に企業見学（12月）、2年次にはITマスター講習会（7月）を実施し、進路選択に向けた情報発信する取り組みができた	生徒の進路選択に向けた情報発信を、企業や関係団体との連携を図りながら、就業実習や社会人講師授業などを活用して進めていく。

評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題	改善方策等	学校関係者評価
			1	2	総合			
第1学年	基本的な生活習慣を確立する。	挨拶・マナー指導を徹底する。	B	C	B	早い段階からしっかりした挨拶ができる生徒がいた一方、2学期には意識低下が見られた。 頭髪指導は定期的なチェックにより2学期には違反行為もあったが改善することができた。服装については指導に対して、素直に従う雰囲気をつくることできている。 ことあるごとに学年集会を開き、生徒、教師を問わず共通の問題意識を持つことができたと思われる。	普段のSHRでの取り組みを強化する。指導や説諭の機会を増やしていく他に方法はない。教師サイドが各項目について同じ重要度を持って指導に当たれるよう共通認識をする必要がある。話し合う機会を増やす方法を模索したい。	A
		生徒指導部と連携を取りながら、入学時より、校門指導や学年の定期的な頭髪・服装指導を徹底する。	A	A				
		王寺工業高校生としての自覚と誇りを持って生活できるように、ホームルームや学年集会において指導する。	B	B				
	進路実現に向けて、基本的な事柄から取り組む。	生徒各自が夢を見つけられるように適切なアドバイスをを行い進路実現に向かって取り組ませる。	B	B	B	各担任から働きかけてもらっているが、生徒の中にそれを受け取る姿勢を持っていない者もいる。 朝学習の時間や、長期休業中に宿題として取り組ませた。 2学期に入りクラブの加入率や実際に参加している者が減少している事実がある。	生徒の意識が、かなり幼い印象が強く、学習に対しても取り組みが甘い。まず、年齢に応じた考え方を粘り強く続けるしかない。 部活動の意義を指導してはいるが、各クラブの考え方や学校としての方針をある程度統一する必要がある。	
		1学年全員に、早い時期から一般常識問題集を導入して、基礎力をつけていく。	B	B				
		人と関わる力や責任感などを伸ばすためにクラブの加入率100%を目指す。 クラブ加入率 A:95%以上 B:90%以上 C:80%以上	C	D				
生徒理解に努める。	個人面談や家庭訪問等を通じて、生徒の状況把握と生徒理解に努める。また、家庭と連携し生徒の成長をサポートする。	B	B		家庭との連絡は各担任が比較的、密に取っているように思われる。			

評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題	改善方策等	学校関係者評価
			1	2	総合			
第2学年	規律ある生活態度の確立と安全教育の推進を図る。	挨拶の励行、マナー指導を徹底し、社会に出るための準備を着実に行う。	B	A	B	校内での挨拶については、習慣化・定着しつつある。社会に出てからも通用する礼儀・マナーについても事あるごとに指導をしていきたい。 服装・頭髪については、指導のために整えるのではなく、自主的・自発的に正していくことができるように指導していきたい。 企業の方や地域、保護者等も含めた王寺工業に対する期待と評価も踏まえ、王工への帰属意識と誇りを持つことができるような指導に努めたい。	王寺工業高校生としての自覚と誇りを持ち、生き生きと校内外において生活ができるよう指導を継続していきたい。併せて、自ら考え自ら律することができる力を養いたい。「王工Quality」の向上に向け、粘り強く指導を行うことを通して、生徒自身の意識向上に努めたい。	A
		学年を中心に生徒指導部と連携して、校門指導や定期的な点検を行い、服装・頭髪指導を強化する。	B	B				
		王工生としての自覚と誇りを持って生活できるよう、HRや学年集会において指導する。また、交通安全を重点に安全教育の強化を図る。	B	A				
	進路実現に向けた取組を強化する。	普段から進路設計について進路指導部と連携し、意識を高める。	B	A	B	さまざまな学校行事を通して生徒一人一人の進路に関する意識を高め、自己実現について考えさせる機会としたい。 インターンシップには積極的に参加し、「働くこと」を考えるよい動機付けになった。 社会で通用する基礎学力の定着とともに、学習習慣を確立させたい。	キャリア教育の観点から、「生きること」「働くこと」の意味を考えさせる。自分自身の将来像について自覚させるとともに、最高学年に向けての心構えを持たせながら自己実現に向けた取組を行いたい。	
		進路指導部と連携し、インターンシップの体験発表会を参考に2学期末にインターンシップを実施し、希望者の参加率100%を目指す。 インターンシップ参加率 A:100% B:95%以上 C:90%以上	B	B				
		第1学年に引き続き、マナトレの指導を行う。SPI問題集の導入を図り、基礎力を付ける。	B	B				

評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題	改善方策等	学校関係者評価
			1	2	総合			
第3学年	基本的な生活習慣を確立させる。	日々の学校生活の中で、担任、副担任、授業担当者、クラブ顧問、生徒指導部等、生徒に関わる全教職員が常に連携をとり、服装、頭髪の乱れを把握して指導する。	B	B	B	学年主任を中心に、学年全体を見据えた定期的な頭髪・服装指導等、当該教員全員での見守りと指導の機会をもってきた。大部分はすぐに改善されるが、一部になかなか改善されない生徒がいた。	自分の将来についてしっかりと考えさせる機会をHRや学年集会等で設け、服装・頭髪指導や日々の学習活動がどのように将来役立つか、関連付けて考えさせる指導を地道にしていかなければならない。また、インターンシップや企業見学などで実際の工場や産業現場で働く人達の姿を見せる機会を増やしていくことも効果的である。	A
		社会人として必要な生活態度、マナー、けじめをつけることなど、時と場所をわきまえた行動ができるよう指導する。	A	A				
	進路実現に向けた取組を強化する。	コミュニケーション能力の向上を目指し、面接指導も含めて、挨拶、礼儀作法、エチケットなど、機会あるごとに実践させ、を身に付けさせる。	B	B		クラス指導だけでなく、学校全体等を通して実施したそれぞれの面接指導を通して、挨拶、礼儀作法などコミュニケーション能力が向上した。	生徒の進路希望情報をサーバ上で共有する事により、目の前の生徒の進路指導に効果的に活かす事ができた。求人数が増えたことで、生徒の選択肢が大幅に増えた結果、実力以上の就職活動となり、学力不足による不合格が目についた。コミュニケーション能力と自己アピールできる力だけでなく、学力の向上も視野に入れた取り組みが必要である。進学者については、現行のセミナーや補充講座をきっかけにして早い時期から継続して取り組ませることが大事である。	
		生徒の現在の希望状況をサーバ上にアップして効果的な活用を行うなど工夫して、クラス担任間で逐次情報交換していく。	B	B		他クラスの生徒の希望状況をサーバ上をとおして共有することで、混乱することなく自クラスの進路指導に非常に役立った。		
		進路実現に向けて、生徒個人が希望した企業や進学先の情報収集をさせ、その試験に臨むための対策を考えさせ、実行させる。	B	A		いろんな先生方からの指導、また個人差はあるがPC等を利用した進路先の情報収集をするなど対策を講じる事ができた。		
		就職内定率100%を目指す。内定率 A:100% B:95以上 C:90%以上	—	A		新元号となり好景気と相まって昨年同様多数の求人数があり、生徒個々も進路実現に向けて積極的に取り組み良い結果を残せた。		
		進学者合格率100%を目指す合格率 A:100% B:90%以上 C:80%以上	—	B		一般大学入試等まだあるが、専門学校も含めて現時点での合格率はかなり高い。		

A. 十分である B. ほぼ十分である C. あまり十分ではない D. 改善を要する

外部評価者からのご意見(抜粋)

- ① 保護者等の考え、意見等を反映させた目標設定されており、学校の思いも込められている。
- ② 各項目とも、非常に重いと感じられ、高い方策・指標設定されている。成果が各項目とも見受けられ、先生方の指導・教育・取組推進の賜物と感じる。生徒に先生方の思いが「伝わる」よう、今後とも取り組んで頂ければと考えます。
- ③ HP(web)の充実と活用をお願いします。産官学の連携の実績・進捗をもっとアピール・発信していくべきではないか。育友会活動をアピールする内容も増やして欲しい。
- ④ 学校での同和問題学習や外国人差別についての学習機会を充実させてほしい。学校と家庭、社会との連携を強化して欲しい。

1. 国語科						
本年度の重点目標		1 指導要領に準拠し、本校生徒の実態の上に立って、自主的・効果的学習を図る。 2 とりわけ、本校の工業教育課程に則して、次の点に留意する。 (ア) 日常生活に必要な国語の能力を高め、心情を豊かにして、目的や場所に応じて正しく的確に理解し表現する態度や技能を養い、言語生活の向上を図る。 (イ) 暗記力万能の教育を排し、考え深める教材として、日常生活の関連の上に具体的に指導する。 (ウ) 教材に対して、自分の考えを持ち、それを書いたり話したりして表現できる力を養う。また、人の意見を聞き取って話し合える能力を身に付ける。				
科目名	使用教科書名 (発行所名)	補助教材名	学年	科目の努力点	評価	改善の方策等
国語総合	明解国語総合 (三省堂)	アシスト常用漢字(数研出版)ビジュアルカラー 国語便覧(大修館書店)	1	(1) 生活に必要な国語の能力を高め、目的や場所に応じた表現や理解ができるようにする。 (2) 文化遺産としての古典作品を通して古人の生活やものの見方、考え方にふれ、現代人のそれとの関連を理解させ、文化の正しい創造開拓の力を養う。	B	・漢字学習を通じて、言葉の「成り立ち・意味」の理解につなげる うえてテキストは効果的であるが、家庭学習させる上では、もう一工夫が必要である。 ・奈良タイムと関連づけ、より地元を意識した教材を用いて古典の授業を進めていく。 ・新聞コラムや意見文の作成などを通じて、要約や意見発表、集約そして評価していくという、アクティブラーニングの要素を盛り込んでいく。文化図書部と連携し、本の紹介に取り組みさせ、ビブリオバトル等に発展させていく。 ・添削講座の受講者の事前面接や個別指導の必要性。
現代文	明解現代文B 【改訂版】 (三省堂)	アシスト常用漢字(数研出版)カラー版 新国語便覧(第一学習社)	2	(3) 教材・作品に対する生徒の自主的な学習を大切に、自由な意見を通して指導する。 (4) 読書感想文や作品・教材ごとの評価・感想・要旨等をまとめることで、的確に効果的に表現する能力を養う。		
現代文	明解現代文B (三省堂)	アシスト常用漢字(数研出版)カラー版 新国語便覧(第一学習社)	3	(5) 視聴覚教材を有効に利用し、学習効果を上げるように工夫する。 (6) 生活に必要な国語の能力を高め、生活のいろいろな立場に適応して、正しく聞いたり話したり書いたりできるようにする。 (7) ものの見方、感じ方、考え方を深めて生活と文化の正しい創造開拓ができるようにする。		
本年度の総括と 次年度に向けて		例年通りの指導を行っているが、生徒の実態が変化してきていることを感じる。今後は生徒の実態に合わせた指導の工夫を行う必要がある。特に来年度からは第一学年の単位数が減少するので、家庭学習できる課題を出す必要があると思われるが、自主的に取り組ませるための対策が必要である。				

2. 公民科						
本年度の重点目標		人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考える力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。				
科目名	使用教科書名 (発行所名)	補助教材名	学年	科目の努力点	評価	改善の方策等
現代社会	高等学校改訂版 新現代社会 (第一学習社)	-	1	現代社会について多様な角度から理解させるとともに、環境・資源・エネルギー問題、経済活動の在り方、政治参加、民主社会の倫理、国際社会における日本の果たすべき役割などについて自己とのかかわりに着目して考えさせる。	B	学習内容の確実な定着を図るため、きめ細やかな指導に努める。
本年度の総括と 次年度に向けて		知識や技能を身につけさせるだけでなく、知識や技能を活用して課題を見出し、解決を図るための思考力や判断力やコミュニケーション能力の育成に努めたい。				

3. 地理歴史科						
本年度の重点目標		我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深め、国際社会に主体的に生きる民主的、平和的な国家・社会の一員として必要な自覚と資質を養う。				
科目名	使用教科書名 (発行所名)	補助教材名	学年	科目の努力点	評価	改善の方策等
日本史 A	新訂版 高校日本史 A (実教出版)	-	2	(1) 基礎・基本を確実に定着させるため、学習プリント等で、生徒にわかりやすい授業を展開する。 (2) 視聴覚教材を授業に取り入れ、生徒の理解をより一層深めさせる。	B	現代社会との関連を意識させるため、身近な話題を取り上げる。
世界史 A	改訂版 世界の歴史 A (山川出版)	-	3	(1) 政治、経済、社会、文化、生活など様々な観点から歴史的事象を取り上げ、近現代世界に対する多角的で柔軟な見方を養う。 (2) 現代の世界が直面する課題について考察することを通じて、国際社会に主体的に生きる民主的、平和的な国家・社会の形成者としての資質を養う。	B	世界の動きに興味・関心を持たせながら、多角的に理解できるような授業の組立を考える。
本年度の総括と 次年度に向けて		アジアとの関わりにも重点をおき、現代につながる戦前・戦後の昭和史に重点をおいた学習指導を行った。「なぜそうなったのか」という問題意識を常に持たせながら歴史に興味・関心を抱かせる指導を行いたい。				

4. 数学科						
本年度の重点目標		1 学習指導要領の内容の研究を深め、生徒の実態に即して指導する。 2 基本事項を重視した指導計画の研究と推進。特に数学的な考え方の基本と計算技能に習熟させる学習指導法を工夫する。 3 生徒の学習意欲を高めるために、実態に即したプリント等の教材を研究し、基礎学力の向上に努める。 4 工業科の実情に応じた指導内容を精選して、必要な科学的概念とそれが応用される事象との関連を理解させる。				
科目名	使用教科書名 (発行所名)	補助教材名	学年	科目の努力点	評価	改善の方策等
数学□	改訂版	改訂版	1	(1) 中学数学との関連を考慮し、生徒の実態に即した工夫をする。	B	授業の中で、主体的に



	最新 数学□ (数研出版)	パラレル ノート 数学□ (数研出版)		(2) 数学における基本的な知識の習得と、基本的な技能の習熟を図り、それらを的確かつ、能率的に活用する能力を伸ばす。 (3) プリントにより課題を与え、その評価を通じて個人指導を強化し、基礎学力の向上に努める。 (4) 数と式、集合と命題、2次関数及び図形と計量について理解させ、基礎的・基本的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。		問題に取り組む時間を確保し、学習意欲の向上を促す時間を確保するとともに、個に応じたきめ細やかな指導を今後も継続する。定期考査前には今年度同様、復習用プリントを配布し、学習環境の確保も整える。
数学A	改訂版 最新 数学A (数研出版)	改訂版 パラレル ノート 数学A (数研出版)	1	(1) 数学的な思考力を広げる。 (2) プリントを併用し、基礎事項の理解を深める。 (3) 専門教科との関連を考慮し、能率的に活用しうる能力を養う。 (4) 社会における数学の果たす役割について認識させる。 (5) 場合の数と確率、図形の性質について理解させ、基礎的・基本的な知識の習得と技能の習熟を図り、具体的な事象を数学的に考察し処理するための能力を育てるとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。	A	
数学□	改訂版 最新 数学□ (数研出版)	改訂版 パラレル ノート 数学□ (数研出版)	2	(1) 基本的な内容を確実に理解させるようにする。 (2) 更に、直観的な判断を基に、論理的な思考を通して、理論を体系化していく能力を育てる。 (3) 「数学□」の内容を発展、拡充させた式と証明・高次方程式、図形と方程式、いろいろな関数の考え方について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理するための能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。	A	
数学□	改訂版 最新 数学□ (数研出版)	改訂版 パラレル ノート 数学□(数研出版)	3	(1) 既習の基本的な内容を確実に理解させるようにする。 (2) 直観的な判断を基に、論理的な思考を通して、理論を体系化していく能力を育てる。 (3) いろいろな関数及び微分法と積分法の考え方について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理するための能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。	B	
本年度の総括と 次年度に向けて		本校生徒の実態に応じた学習内容の精査し、生徒たちが意欲的に学習に取り組めるような教材作成・授業展開を進めていく。				

5. 理 科						
本年度の重点目標		1 基礎的・基本的な概念の理解を深め、自然科学の総合的なものの見方・考え方を養う。 2 学習効果を高めるため講義と実験の工夫に努める。				
科目名	使用教科書名 (発行所名)	補助教材名	学年	科 目 の 努 力 点	評価	改善の方策等
科学と 人間生活	科学と人間生活 (実教出版)	入門理科 化学編 物理編 高校化学基礎 カラーノート	1	(1) 日常生活の身近な現象により興味を持たせ、基礎的基本的な概念の理解を深めさせる。 (2) 工業の専門科目との関連性も重視する。	B	・演示実験だけでなく、主体的に取り組むことができる実験を実施したことで、現象に対し親近感が沸いたと感じる。経験を積ませることが大切であると感じる。
物理基礎	物理基礎 (実教出版)	高校物理基礎 サブノート	2	(3) 実験や視聴覚機器の活用により学習の効果の高揚に努める。 (4) 個人指導に留意する。		
本年度の総括と 次年度に向けて		・基礎的基本的な学習に重点を置き、身近な現象の理解を深めることができた。論理的で建設的な思考に努めることができたが、数学的な計算につまずく生徒が散見された。次年度は計算過程にも重点を置き、数値を導き、数的概念の理解も促進させていきたい。				

6. 保健体育科						
本年度の重点目標		健康安全や運動についての理解と運動の合理的な実践を通して、計画的に運動をする習慣を育てるとともに健康の保持増進と体力向上を図り、明るく豊かで活力のある生活を営む態度を育てる。				
科目名	使用教科書名 (発行所名)	補助教材名	学年	科 目 の 努 力 点	評価	改善の方策等
保 健	1年 現代保健体育 (大修館書店) 2年 現代保健体育 (大修館書店)		1 ・ 2	(1) 中学校において学んだ保健の知識や習慣などを基礎として、個人および集団の健康や安全について理解を深める。 (2) 生涯を見通した健康生活の設計について学び、正しい性に対する理解を深める。	B	学ぶことに興味や関心を持ち続け、自ら学習活動を振り返る「主体的な学び」の実現をめざす。
体 育			1 ・ 2 ・ 3	(1) 個人的発達に重点をおき、運動を自主的に行うための基本的な知識および能力を身に付ける。 (2) 社会的な発達に重点をおき、グループの中の個人グループ対グループの関係を広め協力を中核として社会的態度を育てると共に、身体的機能の向上を図る。 (3) 社会的・精神的発達の内容や傾向を習得させ、発達に最も関係の深い運動や生涯スポーツにつながる種目を選択させ、各個人の生活の中へ取り入れられるようにする。		
本年度の総括と次年度に向けて		保健体育における質の高い学びの実現を目指し、生徒たちが学習内容を深く理解し資質・能力を身につけ生涯にわたって学び続けるようにする。				

7. 英 語 科	
本年度の重点目標	1 英語に興味をもたせ、英語を楽しく学習できる授業に努める。 2 基礎的文法事項を確実に理解させ、語彙をできるだけ増やすようにする。 3 A L Tとの Team-Teaching を通して英語の音声に慣れさせ、実用面の運用を図る。

科目名	使用教科書名 (発行所名)	補助教材名	学年	科目の努力点	評価	改善の方策等
コミュニケーション英語Ⅰ	BIG DIPPER (数研出版)	ワークブック、ベーシックノート、英単語ターゲット1200、練習ノート	1	(1) 中学校での既習事項の復習につとめ漸進的に高1の程度に高める。 (2) 基本的な文法事項を確実に理解させる。 (3) 語彙力の強化に努める。	B	文法事項の指導内容や順序を工夫したり、反復練習の徹底や予習復習の習慣を身に付けさせたりすることにより、基本事項のより確かな定着を目指す。
		ワークブック、ベーシックノート 英単語ターゲット1200	2	(1) 文章をリズムに慣れるため発音や文の句切りに注意して繰り返し音読練習する。 (2) 基本的な文法事項を確実に理解させるとともに、応用力を培う。 (3) 語彙力の強化に努める。	B	
英語会話	SELECT (三省堂)	テスト式就職英語	3	(1) 題材を通して異文化にふれさせ、興味・関心をもたせる。 (2) 就職、進学などの英語問題に慣れさせる。 (3) 運用能力を伸ばすためプリント学習を多く取り入れる。 (4) ALT との Team-Teaching を通してより実用的な英語会話を実践する。	B	会話だけでなく、簡単なディスカッションやディベートにも挑戦する機会を設け、英語運用能力やコミュニケーション能力の向上を目指す。
本年度の総括と次年度に向けて		<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度より、2年生の授業でも ALT の活用を試みたが、会話やゲームを通して積極的に活動に取り組む生徒が多く、英語で自分の考えを伝えようとする姿勢も向上した。</li> <li>・3学年を通して聞くこと・書くことに関する言語活動量が不足している。次年度は1年生の授業単位数が1単位増加するので、指導内容を工夫しリスニング活動や英作文の練習をより多く取り入れていきたい。</li> <li>・また、本年度3講座実施した進学セミナーの内容や対象学年等を再考し、3年間を通した効果的な進学指導ができるよう努める。</li> </ul>				

10. 機械工学科						
本年度の重点目標						
1 「ものづくり」を基盤とした機械、電気、制御に関する基礎的・基本的な知識や技術の習得を目指す。 2 生徒の実態・能力・適性に応じた学習指導法や生徒自ら「興味・関心」が持てるように、教育工学の見地により研究し実践する。 3 社会のニーズに対応できる教育内容を研究し、生徒個人の進路実現に寄与する。また、社会、生徒、保護者に対する教育内容の質的保障を確立する。 4 本年度の検討事項 ① 新たにテキスト化した実習内容を実施し、検討を加え内容の確定を図る。 ② 教育の質保障の取組における社会への発信方法の検討。 ③ 授業計画と教育目標を明確化する具体的な方法について検討する。 ④ 様々な教育におけるコミュニケーション能力向上の方法について検討する。						
科目名	使用教科書名 (発行所名)	補助教材名	学年	科目の努力点	評価	改善の方策等
工業技術基礎 実習	工業技術基礎 (実教出版)	自作 テキスト	1	(1) 工業の各分野にわたる基礎的な技術を実験、実習によって体験させ、興味、関心を高める。 (2) 工業人として作業に対する姿勢や安全に関する考え方を身に付けさせる。	B	自作テキストや図面について1年間を通し気づいた点などを、担当者がブラッシュアップし改訂を行う。 3年生には新たにCAM についての実習授業を導入予定。
		自作 テキスト	2 ・ 3	(1) 各種実習項目を通して基本的な知識、技術を習得させ、あわせて科学的に考察する能力を養う。 (2) 実習指導書のほか適切な資料、教材などを活用する。 (3) 生徒の能力、適性に応じた指導法の工夫に努める。 (4) 安全教育について、特に留意する。	B	
製図	機械製図 (実教出版)		1 ・ 2 ・ 3	(1) 正確な図面を能率的に作図できる能力や読図できる能力を養う。 (2) CADの基本機能や機械要素製図に重点をおいて学習させる。 (3) 実習などで使用する図面との関連について留意して指導する。 (4) CAD製図の特徴を最大限に生かし、設計製図のプロセスを指導する。 (5) 2年生において基礎製図検定合格、3年生において機械製図検定合格を目指す。	B	次年度より1年生の製図を、製図(2単位)、チャレンジ(1単位)とし、製図および資格取得の授業内容をさらに充実させる。
課題研究			3	(1) 専門的な知識・技術を深め、それらを総合化して問題解決能力を高める。 (2) 物事を系統的に分析できる能力を「ものづくり」を通して育成する。 (3) 創造性を育成する。 (4) 自己表現力(プレゼンテーション)を高める。 (5) より実践的な技術の習得を目指す。 (6) 社会人との接触をとおしてキャリア意識の向上を目指す。	A	今後は地域との連携を強化できるテーマ創出を検討していきたい。
機械工作	機械工作1 機械工作2 (実教出版)		1 ・ 2 ・ 3	(1) 各種金属材料について、その特性を学び、実際の利用例を知る。 (2) 各種の工作法について理解させる。 (3) 実習との関連について留意して指導する。	B	今年度1年生の機械工作において観点別評価を取り入れた実績を元に、他学年や他教科に拡充していきたい。
機械設計	機械設計1 機械設計2 (実教出版)		2 ・ 3	(1) 機械力学の基礎と機械要素について理解させる。 (2) 機械要素の種類、構造、機能及び設計方法について理解させる。 (3) 製図との関連について留意して指導する。	B	
原動機	原動機 (実教出版)		2	(1) エネルギー変換の基礎を理解させる。 (2) 流体機械を通じて流体の利用方法について指導する。	B	
生産システム技術	生産システム 技術 (実教出版)		1	(1) 電気と電子に関する技術の基礎的な理論を理解させる。 (2) 電気・電子回路で使われている部品に関して理解を深める。	B	
情報技術基	情報技術基礎	Word/Excel/PowerPoint	2	(1) コンピュータの操作などを通じて、その役割と機能	B	

礎	(実教出版)	標準テキスト(技術評論社)	・ 3	について理解させ、情報を適切に活用する能力を養う。 (2) 基礎的なソフトの活用法について理解させる。		
本年度の総括と 次年度に向けて		・実習(工業技術基礎含む):安全に留意し1年間を無事終えることができた。今後は、観点別評価をより効率的に実施するため、実習検討委員会でレポート課題の検討を行い、生徒の資質能力の向上を主眼とした自作テキストの内容充実を図る予定である。 ・課題研究:本年度もとても充実した科内発表会を行うことができた。次年度はテーマ設定において、地域連携を含め視野を広げることを検討していきたいと思う。 ・その他の科目:昨年度機械工学科内で授業内容の統一を図るため、教科検討委員会において進捗の設定を行った。今年度はそれを元に、各教科の進捗や内容をある程度統一できたと思う。今後課題を抽出し、来年度に向けた取組を検討していく。また、観点別評価については学年や教科を拡げて実施していく予定である。				

11. 電気工学科						
本年度の重点目標		1 工業に関する広い視野を養い、工業技術の基礎を認識させるとともに、電気に関する知識と技術を習得させ、資格取得を目指すとともに電気関係事業の業務に従事する技術者を育成する。 2 実習を通して正しい就業観と勤労観を培い、協調と責任のある態度を養う。 3 生徒の能力・適性に応じた効果的な学習指導の実践に努力する。				
科目名	使用教科書名 (発行所名)	補助教材名	学年	科目の努力点	評価	改善の方策等
工業技術基礎	工業技術基礎 (実教出版)	電気工学科自作教材	1	(1) 実験、実習という体験学習によって工業に対する興味、関心を高める。 (2) 基礎的な工業技術を習得させる。 (3) 専門の学習をするための意欲を高める。	A	レポート提出の遅れや煩雑さが目立つので、必要性についても指導していく。
電気基礎	電気基礎 上下 (コロナ社)		1 ・ 2 ・ 3	(1) 電気に関する基礎的な理論を理解させる。 (2) 電気計器の測定法などを理解させる。 (3) 実際に活用する能力を養う。 (4) 電子工学技術の基本的知識を理解させる。	B	内容が簡単な節は理解しているが難易度が上がると理解が難しい。反復練習を通じて理解を深めていく。
情報技術基礎	情報技術基礎 (実教出版)		1	(1) コンピュータの操作などを通して、その役割と機能について理解させ、情報を適切に活用する基礎的な能力を培う。 (2) 計算技術・情報技術の資格取得をめざす。	A	情報教育には興味を示すので、情報モラルもしっかり指導していく。
実習		電気工学科自作教材	2 ・ 3	(1) 基礎的な知識、技術を習得させ、協調と責任ある態度を養う。 (2) 実習内容は社会状況を考慮し、生徒の実態に応じた指導内容とする。 (3) 実習を通じて各科目と有機的な関連を考慮する。	B	個々の実習内容が座学の進捗状況に合う形に精選していく。
電力技術	電力技術1 (実教出版) ・ 電力技術2 (実教出版)		2 ・ 3	(1) 電力の発生から輸送のしくみや特性を理解させる。 (2) 電機設備について工事や維持及びその運用について学習させる。 (3) 電気関係法規との関連で保安・管理に関する技術を習得させる。 (4) 電気エネルギーを利用する視点から、照明・電熱・電気化学・電気鉄道・その他の電力応用および省エネルギーに関する技術を学習させる。	B	関西電力との連携協定で授業と施設見学の相互作用で理解を深めることができた。次年度は安定したスケジュールで行っていく。
電子計測制御	電子計測制御 (実教出版)		3	(1) オートメーションの技術を理解させる。 (2) コンピュータ制御の技術を理解させる。 (3) 電子計測技術について実例を指導する。	B	技能検定にも対応した内容へと対応していく。
課題研究			3	(1) 生徒が主体的にテーマを設定し、作品製作、調査、研究などを計画的に実践する力を育てる。 (2) 自主的、継続的な学習を通じて科学的、技術的な思考力及び探求的、創造的な能力と態度を育てる。 (3) 研究した内容をまとめ発表する技術と能力を育てる。	A	各班で協力しながらものづくりができていた。さらなる技術を必要とするようなテーマ設定をしていく。
電気機器	電気機器 (実教出版)		2	(1) 電気機器の基本的な原理、構造、特性とその取り扱いを理解させる。 (2) 実習や他の専門科目との関連を図って指導する。 (3) 技術革新に対応した内容を指導する。 (4) 電気材料の概要を理解させる。	B	電気機器の実物を見せて動作原理を理解させていく必要がある。
電子技術	電子技術 (実教出版)	無線従事者養成課程用 標準教科書 第三級陸上特殊無線技 士用 法規	2	(1) 半導体と電子回路の基礎的内容に重点をおき理解させる。 (2) 無線通信・有線通信の原理を理解させる。 (3) 電子技術の発達と現状について考えさせる。 (4) 電波法を学び、無線に従事するための法規を学習させる。	B	電子素子は同じようなものが多いので、見た目や特性の違いを整理して理解させていく。
製図	電気製図 (実教出版)		1	(1) 製図の基礎を理解させる。 (2) 製図の作成能力と読図能力を養う。 (3) 設計技術を養う。 (4) CADを使って製図作品を仕上げる。	B	第二種電気工事士試験に向けて、複線図や製図の基礎をしっかり理解させていく。
本年度の総括と 次年度に向けて		生徒が自ら資格を取得したいとか、大きな企業に就職したいなどの意欲が低下しており、モチベーションを上げて学校生活を送れるような工夫が必要である。 電気技術者のスペシャリストとして卒業を迎えられるように学習内容、資格取得、進路指導を検討していく必要がある。				

I 2. 情報電子工学科						
本年度の重点目標		1 情報に関する知識や技術を習得させ、実際に活用できる能力と態度を育てる。 2 生徒の能力・適性に応じた効果的な学習指導の実践に努める。 3 社会のニーズに対応できる教育内容を研究し、生徒自身で進路実現に向けた行動ができるように働きかけていく。				
科目名	使用教科書名 (発行所名)	補助教材名	学年	科目の努力点	評価	改善の方策等
工業技術基礎	工業技術基礎 (実教出版)	情報電子工学科自作 教材	1	(1) 工業の各分野にわたる基礎的技術を実験、実習によって体験させる。 (2) 工業に関する広い視野と倫理観を育成し、より工業に関する興味、関心を高める。	B	提出物の遅れや内容が雑な生徒が目立つ。 今後も期限を守り、丁寧な仕事をする心構えの育成を図る。
情報技術基礎	情報技術基礎 新訂版 (実教出版)		1	(1) 社会における情報化の進展と情報の意義や役割を理解させる。 (2) コンピュータの役割と構造や機能について理解させ、情報を適切に活用する基礎的な能力を養う。 (3) 情報技術の資格検定の取得をめざす。	B	情報技術に関する知識が浅く、社会情勢や話題を取り入れた授業展開が必要である。
チャレンジ		乙種第4類危険物取扱者 (高橋書店)	1	(1) 工業に関する資格・検定について知識を深める。 (2) それぞれの資格の違いを知り、自ら学習計画を立て、積極的に資格取得に取り組む態度を身に付けさせる。 (3) 幅広い知識を身に付け、社会のニーズに適切に対応できる能力と態度を育てる。	B	資格・検定取得に対して、社会での必要性や発展性について説明していき、自主的に取り組む姿勢を育てていく。
電気基礎	電気基礎1 電気基礎2 新訂版(実教出版)		1 ・ 2	(1) 電気・電子の基礎を学び、工業の生産システムに必要な知識と基礎技術を習得させる。 (2) 電氣的諸量の相互関係と式の変形や計算により処理する方法など、高度な内容に繋げる基礎力を身に付け、実際に活用できる能力と態度を育てる。	B	進捗状況にあった授業が必要であり、計算問題の反復練習をして習熟度を高めていく。
実習		情報電子工学科自作 教材	2 ・ 3	(1) 専門分野に関する情報技術・電子計測・電子工作などの基礎的な技術・技能を自ら直接経験することにより確実に身に付けさせる。 (2) コンピュータ・電子機器・計測機器を正しく、丁寧に取り扱い扱える技術を身に付けさせる。 (3) 実習を通して、責任感・協調性ならびに研究的態度を養い、安全に対する意識を持たせる。	A	実習内容の精選を行っており、積極的に取り組む生徒が多い。
製図	電子製図 (実教出版)		2	(1) 製図に関する日本工業規格および電子技術の分野の製図について基礎的な知識と技術を習得させる。 (2) 製作図・設計図などを正しく読み図面を構想し作成する能力を育てる。	B	基礎製図検定の合格率向上に努める。 電子系のCADも取り入れていきたい。
工業数理	工業数理基礎 (実教出版)		2	(1) 工業の各分野に共通した数学、物理および化学の理論の基礎・基本を習得させ、実際に活用する能力と態度を育てる。 (2) 迅速かつ合理的に数理処理できる能力を育てる。	B	学ぶ範囲が多いため、内容を精選して、授業展開を行う。
プログラミング技術	プログラミング技術 (実教出版)		2	(1) コンピュータのプログラミングに関する知識と技術を習得させ、実際に活用する能力と態度を育てる。 (2) 実習の内容と連携させ、理解を深めるようにする。	A	実技回数を増やすことで、理解度を高める。
電子計測制御	電子計測制御 (実教出版)		2	(1) 電子計測制御(シーケンス制御・フィードバック制御・コンピュータによる制御など)に関する知識と技術を習得させ、実際に活用する能力と態度を育てる。	B	シーケンス制御を重点的に学んでおり、実習の内容に則した授業を行う。
電子回路	電子回路 新訂版(実教出版)		3	(1) 電子回路に関する知識と技術を習得させ、実習と関連を図ることで電子技術の基礎を理解させる。 (2) 実際に活用する能力と態度を育てる。	B	内容が多いため、内容を精選して、授業展開を行う。
工業管理技術	工業管理技術 新訂版(実教出版)		3	(1) 工業生産の運営と管理に関する知識と技術を習得させる。 (2) 将来の産業現場において実際に活用する能力と態度を育てる。	B	社会に出てから役立つ内容であるため、最近の話題と関連させて授業を進める。
通信技術	通信技術 (実教出版)	無線従事者養成課程 用法規(情報通信振興会)	3	(1) 実習、電子回路と十分関連を図り、通信技術に関する知識と技術の概要を習得させる。 (2) 高度な事項はなるべく避けて、実際に活用できる能力を養うために必要な基礎技術を習得させる。	B	内容が多いため、内容を精選して、授業展開を行う。
ハードウェア技術	ハードウェア 技術 (実教出版)		3	(1) 基本的な論理回路の構成の仕方、コンピュータの仕組み、データ通信、ネットワーク技術、数値制御などに関する知識と技術を習得し、実際に活用する能力と態度を育てる。 (2) 情報技術に関する資格の取得をめざす。	B	学ぶ範囲が多く、それが実際のものづくりに生かしているか不明確である。
課題研究			3	(1) 情報技術に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識、総合的な知識を習得させるとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。 (2) 研究した内容をまとめ、発表する技術と能力を育てる。	A	専門で学んだ知識・技術を生かして、社会に役立つテーマ設定を行う。
本年度の総括と 次年度に向けて		学習に取り組む姿勢が変化しており、資格・検定を取得したいという願望は持っているが、前向きに取り組む姿勢は低いままの生徒が多く受けられる。今後も生徒の実態に合わせ、学びに向かわせる指導の工夫を行う必要がある。 工業高校の情報系学科として、「情報技術」・「電子技術」・「通信技術」を活かしたものづくりに着目し、これからの Society5.0 社会に対応できる人材育成に向けたカリキュラムの検討を行う。				